

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム石動
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	佐賀県神埼郡吉野ヶ里町石動3210
記入者名 (管理者)	江頭 久治
記入日	平成 20年 10月 14日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域とのつながりによって事業所が成り立っており、理念にも『地域に開かれた施設であり、地域との交流の手助けに努めます』と掲げている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は日々理念に基づくケアの在り方について話しをしており、ミーティングでは理念にのったケアについて意見の統一を図っている。管理者・職員は毎朝申し送り前に理念を読み上げる事によって理念の共有、実践を行っている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営理念をホームの見えやすい所に掲げ、入居者、家族に説明している。又、家族と地域の交流を図り、バーベキュー会・敬老会に参加した。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	管理者や職員は隣近所の人と気軽に話し、地域の人を呼んでバーベキュー料理をしたり手作りおやつを作った時等地域に食べていただき地域からは野菜等をいただき交流に努めている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として自治会に加入しており、ふれあい祭りや子どもクラブとの七夕の開催。地区の老人会、敬老会、文化祭、清掃活動等の行事にも積極的に参加する等地域との交流を図っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者の支援を念頭に地域で役立つ事がないか話し合い、同事業所内にあるデイサービスの居宅事業所と連携しながら部落の清掃活動、老人会、介護者教室に参加し取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員がサービス評価の意義等を理解しており、自己評価を全員で行い問題点を見出す等サービスの質の向上に役立っている。外部評価の結果は公表し話し合い改善に向け取り組んでいる。	○	外部評価による課題については介護計画、食事の献立表作りなど職員会議で話し合い改善をはかっている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者やサービスの実情、今後の在り方、方針について報告、話し合いをなし意見を役立てている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町や地域包括支援センターとは課題解決の為、施設の実情やケアサービスの取り組み等を話し、互いに理解を深め利用者の紹介等協力を得ている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員は成年後見制度について研修を行い。利用者の家族との話し合い成年後見人の紹介を行う等なしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月1回の勉強会を事業所内で行われ、高齢虐待防止関連法についても学び、介護に対してへの姿勢、介護の在り方を勉強し、注意を促し防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結及び解消の際は、利用者や家族の申し出をよく聞き、それに応じて十分な説明を行い、理解・納得を図っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との交流の場を多くし、明るいうもど作りをし、気軽に話をしてもらっている。意見・苦情・不満は組織に乗せ運営に反映させている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりや職員の異動等については、毎月発行のホーム便りで家族に報告すると共に異変時にはその都度、その他来園時や家族会等で報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や苦情等は、目安箱を設置している他、来園された時や、家族会、家族代表を含めて運営委員会等で問いかけ何人でも気軽に話し合ってもらえるような雰囲気作りをしている。出された意見や要望はミーティングで話し合い改善を図っている。	○ ターミナルケに対する家族の要望に応えるために職員の能力向上に努めたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者や管理者は年2回の各職員との個々面接、勤務中や毎月のカンファレンス、勉強会等により自由に意見を述べてもらい運営に反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況の変化、要望等によって時差出勤制にする等、勤務体制の調整を図っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の各事業所間で度々職員の交流派遣を行い、利用者に馴染んでもらうと共に異動や離職を必要最小限にとどめ異動者・退職者に遊びに来てもらったり退職者を再度雇用する等、利用者のダメージの防止を図っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、管理者、職員が段階に応じて内外の研修を受け、資格取得を図ると共に講師を招いての勉強会をなし、能力向上に努めている。また、職場での機会教養や毎日のリーダー制の取り入れ、各職員を交代で行事開催時の実行委員をする等、日々の能力の向上に努めることを推進している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業者との合同の勉強会、施設見学や講師として招聘する等の相互交流等、活動を通じサービスの向上を図っている。</p>	○ 同業者間のネットワーク作りに努めたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は、職員の希望休みを勤務表に取り入れ、建設的な意見は取り入れるようにしている。また、年2回個人面接により、要望・悩みを聞き、ストレス解消を図っている。</p>	○ 職員旅行、ボーリング大会等の実施に努めたい。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は年度初めには、1年間の業務目的、個人としての目的を掲げてもらい目的達成に努力してもらっている。賞与は人事考課により、正・臨時職員に支給し各種資格手当でも支給している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用前は、管理者が利用者と接触し、困っている事、不安な事を聞き、安心してもらうよう努めている。また、体験入所を数回行い、相性を見た上で本人及び家族と相談し決定している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前に管理者やケアマネージャーが家族と話し合い、家族の申し出を聞き、介護の実態、日常生活等について理解、納得してもらい入所してもらっている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、ケアマネージャーが本人、家族とよく話し合い、どんな支援が必要かよく見極め、必要とするサービスに努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前面談などで生活状態を出来るだけ把握し、本人が安心して納得できるように、デイサービスから利用したり、また一週間程度の利用をしてもらい本人は当初はできるだけ回数を多く家族と訪問してもらい馴染んでもらっている。	○	利用者、家族が安心していただけるように、スタッフのレベルアップに努めていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は本人が人生の先輩である事を意識しており日頃からの料理や漬物つけ畑仕事等教えてもらう場面がある。スタッフの流れにならず、利用者本位の気持ちになり、喜怒哀楽を共にしお互いに支え合う関係を大切にしている。	○	利用者が喜怒哀楽をだせるように寄り添えるように、ふれあいの場面を多くしていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族との連絡をよく取り合い、家族に本人の係りつけの病院に連れて行ってもらったり家族と外での食事や自宅での宿泊、ホームでの家族会、各種作業等において家族と共に本人を支え、家族とのコミュニケーションを大事にしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	できるだけ面会に来ていただき、疑問に思ったことは家族に聞き、より良い関係が築けるようにしています。家族に出来るだけ面会や家族会・ホームでの行事等に来ていただいたりしまして、家族と本人との接触の機会を多くし、本人と家族の良好な関係を築いていけるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の家、生まれ故郷、墓参り等希望があれば連れて行き、また本人の近所の店に買い物へ行ったりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、食卓の位置、車内の席、居間での座席を考慮している。足の不自由な人の手を取って支え合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	本人が退園されても家族と連絡を取り合ったり本人に面会に行ったりして関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で情報の把握に努めている。会話、表情、行動等から真意を推し量ったり確認する等、本人の希望や意向の把握に努めている。但し、本人の思いや希望のみを尊重すれば機能の維持、向上にマイナス面を生じかねないので利用者本意に支援しながら検討している。	○	本人の情報を家族や本人の知人等から聞き把握に努めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人、知人、面会者等から情報の収集に努め、生活歴、生活状況、生活環境、これまでの利用の経過等の把握に努めている。	○	常に職員が見られるように、個人ファイルにまとめている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員に利用者の担当制を設けたり、カンファレンス会議、毎朝の申し送り、通常勤務、嘱託医との連携等により1日の過ごし方、心身状態、有する能力等の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で得た本人や家族の希望・意向を反映させるようにしており、また、かかりつけ医師の意見も取り入れ、月例会議、朝礼等で意見を出し合い介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の見直しは月1回のカンファレンスで行っている。また、状態、状況の変化や本人の要望に応じて随時に介護計画の見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿ったケアチェック表への記入、誘導を要する方の排泄チェック表、重度の利用者への集中ケア表、パソコンを用いたケース・看護記録により利用者様々人に合わせた日々のケアに取り組んでいる。便秘解消に玄米食、ヨーグルト食を施行している。	○	ケアの実践・記録法についてはカンファレンス等の場を用いて情報交換・意見交換をし話し合いこれからも継続していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスで行われる音楽リハビリ、行事参加、毎週日曜日にグループホーム、小規模多機能間で実施している合同レクリエーション等にてゲーム活動及び趣味活動等積極的に実施している。	○	新たにできた小規模多機能の事業所を含め、幅のある多機能性を出した支援が出来るようにしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地区の老人会への参加や、清掃活動への参加、また地域の民生委員会の方と協働し、情報交換や助力を得よう努めている。地域にある商店を利用し地域の方との交流を図っている。同法人の他事業所の活動にも参加し、そこからも地域の方々との交流を深めている。消防署や、警察との連携を図り、防災、事故防止に努めている。	○	防災・事故防止等への消防署・警察との協力体制はこれからも継続していく。今年は交通安全協会主催の無事故競争にも参加しました。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	福祉用具の購入時、利用者に合わせサービス事業者との相談を行いながら利用者に提供している。利用者の心身の状態によっては、他のサービス機関が利用出来るように支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向や必要性に応じて権利擁護や統合的、長期的なケア、マネジメント等について地域包括支援センターとの相談、話し合いを行い協力を図っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人馴染みのかかりつけ医、本人家族が希望する協力医療関係のかかりつけ医となっている。月2回の往診や臨時の往診などかかりつ医とは良好な関係を保っている。	○	今年も嘱託医との連携を推進していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>今後も医師や看護師と連携をとり、早期退院できるよう、また支援が充実できるよう対応していく。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>職員の能力向上もこれから図っていき、より良いケアが出来るよう終末期ケアへの対応をしていきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>受け入れに備える確かな知識や技術を身につけ、ケースに合わせた今後もマニュアルの作成、勉強や情報の共有の徹底に図りたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助、誘導等の声掛けはさりげなく優しく行い、ホーム便りや掲示写真、研修資料等も家族の同意、了解を得て使用する等、全職員が人としての尊厳を重視し、利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応を図っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の希望を顕在化できるように衣類の選択や、買い物時昼食時に、夕食を何が食べたいのか尋ねる。本人の意向に添えるように質問方法を配慮し、自己決定が出来るよう支援している。自己決定された食事、買い物、見学先等については実現に努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応のその日の流れはあるが、利用者の負担にならないように、その人に合ったペースで自由に時間を過しており、職員は一人一人の状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	季節に合わせて服を選んでもらっている。今まで利用していましたが近所の美容室もやめられ、馴染みの美容室は遠く、本人の希望もないのでボランティアの方に来てもらっている。希望があれば実現できるように心掛けている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	衛生面に気をつけながら、利用者が出来る場所は利用者にしていただき、職員と一緒に食事の準備、後片付けを行っている。月に数回は利用者と弁当を作り、花見等をしたり同事業所の合同レクに出かけ、喜びを感じてもらえるよう支援している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	定期的に水分補給を行い、利用者様一人一人の好みに合わせて摂取していただいている。たまに梅酒等を食前酒として少量だしたり時期に合わせて温かいお茶や冷たいお茶を摂取していただいている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失禁など多い利用者様に対しては排泄チェック表をつけ、一人一人の排泄パターンを把握し誘導を行っている。外出時は必ず排泄の誘導を行っている。	○	排泄時間等を把握し、トイレ誘導を行い、排泄の失敗やオムツ使用を減らしていくよう取り組んでいる。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人家族の同意を得て、基本的には隔日午後からにしているが、状況によっては続けて入ったり、就寝前に入る等、希望に応じて対応し、入浴を楽しんでもらっている。頑固に入浴を拒否される方には家族にも協力してもらい対処している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の状況に応じて、自室で休んでいただいたり、居間のソファにて仮眠できるような空間作りを支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の生活歴を把握し、家事など職員と一緒にさせていただいたり、たけのこ掘り、畑の作業などレクの中に取り入れを行い、御礼の言葉も伝えている。またその為の場面作りにも配慮している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じ買い物時などにお金を渡しほしいものを買ってもらうように言葉かけをし実施してもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	同法人の事業所へ音楽リハビリ、カラオケ、園児との交流を行っている。日々の買い物、ドライブなどの戸外に出かけ支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者から食事の希望をとり、店に出かけて食事をしたり、また利用者の好みの演劇を見学に行ったりしている。また家族の方の希望で家族の方と一緒に外泊・外出されている家族もおられる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話には直接話してもらっている。対応困難な利用者には現況の報告等スタッフが成り代わりしている。利用者にはその旨を分かりやすい言葉で伝えている。	○	年賀状・書中見舞い等出せるようにして行きたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の都合も含め、いつでも面会が出来るようにしており園での近況をお伝えしたり、情報交換をしている。ゆっくり話を出来るようにしており、雰囲気作りを常に心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束はしていない。各部屋とも襖障子等で仕切りがある。昼間は玄関のドアや各部屋の戸は開放している。全職員に拘束0というのが浸透している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、全職員は日中、玄関や窓に鍵を掛けない。全職員理解している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に利用者の所在や行動に配慮している。時折、帰宅願望から外に出られる事がある。必ず職員が付き添い利用者の心を和らげたりまた職員は携帯電話で状況を他スタッフに連絡し安全を図っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤、除草剤、除菌剤、薬、油類、医消毒薬等、危険なものは目に付かないところや職員の管理の元で保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	それぞれの事故防止の為のマニュアルを作り、各人の行動の予測の為の勉強会をなし検討を行っている。年2回の火災・防災訓練を行いまた研修している。また、事故の危険発生の時はヒアリハットを、事故発生の時は事故報告書を書いてもらい、それに基づき検討会を開いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急連絡表を作成し、貼布している。年2回消防署より来ていただき救急法を学んでいる。また、利用者の急変時には看護師に連絡し、看護師から病院に連絡をとったり、急変を要する時は救急車を呼んだりしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災に対しては年2回消防署より来ていただき避難訓練を実施している。又、地域との交流を老人クラブ、焼肉会、清掃活動等で交流を深め、協力を呼びかけている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	各行事に参加された時や面会時の折、健康状態やリスクについて説明、今後の対応策について話し合う。状態が悪化された時等、電話又は来園していただき、病状や対応等について話し、安心していただけるように努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝必ずバイタルチェックを行い、変化・異変時にはすぐさま看護師に伝え異常時は医療機関へ受診できるようにするか、かかりつけ医に相談する等行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	嘱託医の往診又、他医療機関の受診時に薬効又、副作用等教えてもらう。確実な服薬のため、薬袋に日付、氏名を記入、毎日各利用者毎に朝昼夕と区別された薬入に入れたのを、職員が確認して手渡しまたは服用の手助けをし、服用されたか最後まで確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	夕食を玄米食とし、又こまめな水分補給に心掛けている。音楽リハビリ、買い物ドライブ等により運動も心掛けている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の義歯の洗浄や力に応じた支援をしており、お茶を利用したうがいを実施している。夜間は預かり洗浄剤にて消毒を施行している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスを考え、1日1300カロリー水分2000ccを目安にしている。全職員が栄養のバランス、カロリー、摂取量を理解する為、時には一週間分の献立表を作っている。	○	職員会議で利用者のカロリー、栄養バランス料理の内容等について各一週間、二回にわたって献立表を作成した。今後も続けていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食事前は必ず手指の消毒をしている。11月か12月にインフルエンザ、肺炎の予防接種も実施している。汚染物等は殺菌漂白剤等につけ感染予防をしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日買い物に行っているのでも新鮮な食材を食べてもらっている。まな板、布巾等は殺菌・漂白洗浄剤で綺麗に洗っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	周囲には、野菜に彩られた畑があり、玄関周辺は花壇で飾られ、建物は民家改修の木造作りで、手造のホーム名があり、利用者や来訪者が気楽に入れるように配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の声、テレビ音量等に配慮し周辺は緑に恵まれた静かな平穏なところである。日当たりの良い窓辺にはレースのカーテンを設置し、玄関・居間には季節の花を飾っている。部屋はいつも換気を行って綺麗な空気を取り入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはテレビ、ソファ等が配置され、誰もが自由に出入りできお互いに楽しく会話がなされている。疲れた時はいつでもソファや自室に行き体を横にし、休憩して過せるようにしている。また、庭には庭石があり、ゆっくりと腰掛けてひなたぼっこをしたりして周辺を眺めてくつろいでおられる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は持ち込み自由であり、落ち着いた生活が出来るように昔馴染みのダンスや使い慣れた日用品、家族と写った写真等を飾っており、利用者の居心地の良さに配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	調理の際は必ず換気扇を使用するようにしている。全部屋にエアコンを設置して各部屋に温度計を置き、部屋の温度調整を行っている。又外気温によって窓を開け放し、空気の入れ替えを行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所に手すりを設置しているので自由に行動が出来る。常に職員の見守りを行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや風呂場等は利用者の目の高さに合わせ、分かるように名称の表示をし、場所の混乱を防止している。残存能力を活かして利用者様に合わせて洗濯物たたみ、料理及び料理の盛り付け等手伝っていただいている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭には大きな庭石があり、ゆっくりと日向ぼっこ等してくつろいでおられる。周囲は水と緑に恵まれ空気も良く、草むしり、散歩等を楽しんでおられる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・生きがいと機能維持の為に、料理、畑仕事、漬物つけ、竹の子掘り、掃除洗濯等、出来る事はして頂くよう心掛け、工夫した言葉掛けを行っています。
- ・毎日必要に応じて、買い物、ドライブ、ピクニック、外食等楽しんでもらっております。
- ・地域との交流を深める為に散歩での部落の人との挨拶、会話、清掃活動等をしております。
- ・地域に根付いて生活する為に、部落に区費を収め、部落の総会にも出席し、管理者が挨拶したり、敬老会には手作りの梅ヶ枝餅を提供し、利用者も出席して会話をしております。特に、本年は、区長さん等、部落から6名来てもらい、利用者や職員を交えてバーベキュー料理をして盛り上がりを見せました。
- ・畑にも恵まれており、季節の野菜等を職員と利用者で作り、一緒に収穫し、その収穫を利用者と喜び合いながら、まさに旬の食事を楽しく頂いております。
- ・グループホーム石動が目指すところは、利用者本人のケアがあり、利用者の権利尊厳を守り、利用者の方が楽しく、元気で生きがいを持って生活出来るよう職員が一同努めております。